

中高年の元気が街に溢れる。：空き店舗利用で名物作り、会食会、いきがい講座の「わっとほーむ」

NPO 法人 戸出コミュニティ開発

機関名	NPO法人戸出コミュニティ開発		
所在地	富山県高岡市戸出町 2-8-10		
電話番号	0766-63-0889		
地域概要	(1)管内人口 14千人	(2)管内商店街数 5商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 5	(2)会員数 100商店	
	(3)空き店舗率 5%	(4)大型店空き店舗数 0	
	本町商栄会 他4商店街		
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（高齢者等交流施設）
 ・高齢者等交流施設
 総事業費 3,301千円

【事業実施内容】

1. 背景

戸出地域は、高岡市の南部に位置し、栃波半野の北部にあって東に立山連峰を望む自然環境に恵まれた地域である。また、鉄道やバスなどの公共交通網が整い、富山市街や高岡市街、石川県方面などへの道路が整備されるなど、大変便利な地域でもある。しかし、近年の商業の現状は、国道沿いにある商業施設が比較的活況を呈している一方、市街地にある商店街では、店主の高齢化に伴う空き店舗の増加といった現象が見られ、衰退が進んでいる。



戸出町の位置（富山県HPを加工）

このような状況を受けて市街地では、高齢化社会の更なる進展を考慮に入れ、福祉に重点をおいたサービスを模索するとともに、高岡法科大学の学生や地域住民、店主らが交流できる街づくりを行っていくこととした。

その一環として平成15年度において整備した、商店街の空き店舗を活用したコミュニティ施設「わっとほーむ」（高齢者等交流サロン）を引き続き活用し、高齢者が楽しみ、憩う場を提供することにより商店街の賑わい創出につなげていくべく事業を実施した。

2. NPO法人戸出コミュニティ開発の概要

NPO法人戸出コミュニティ開発は平成14年12月、高岡市戸出地区を中心とした市民に対して、文化教育・福祉・産業など各分野が協働して高齢者福祉や地域の交流促進に関する事業などを行い、地域福祉の増進と住みやすい魅力的なまちづくりに寄与することを目的として設立された。戸出商工会だけでなく農協団体、大学と協同して高齢者を街の中に取り込む運動と地域の特性を商品化して転業を含めた事業化を目指している。メンバーは、地元商店街と社会福祉関係者、農協の婦人部が運営主体となり、障がい者を対象とした自立支援とパン作りも支援している。

3. 事業内容

(1) 事業の目的

- ・「わっとほ一む」と駅前を拠点としたイベント発信により戸出商店街への入り口を明確化し、商店街への回遊を図る。
- ・戸出の街としての話題性を創出する。
- ・定期的に会食事業を開催する等により高齢者同士の輪を広げる。
- ・50代後半以降をターゲットとした街づくりの実験を行う。
- ・「わっとほ一む」での様々なイベントを通じて、店主等に商店街の空き店舗での商売再開への足掛かりをつくる。
- ・高齢者、市民グループ、福祉グループ、学生の交流の場の提供による商店街への固定客づくり。



わっとほ一む（わっとほ一むHPより）



歌謡ショー

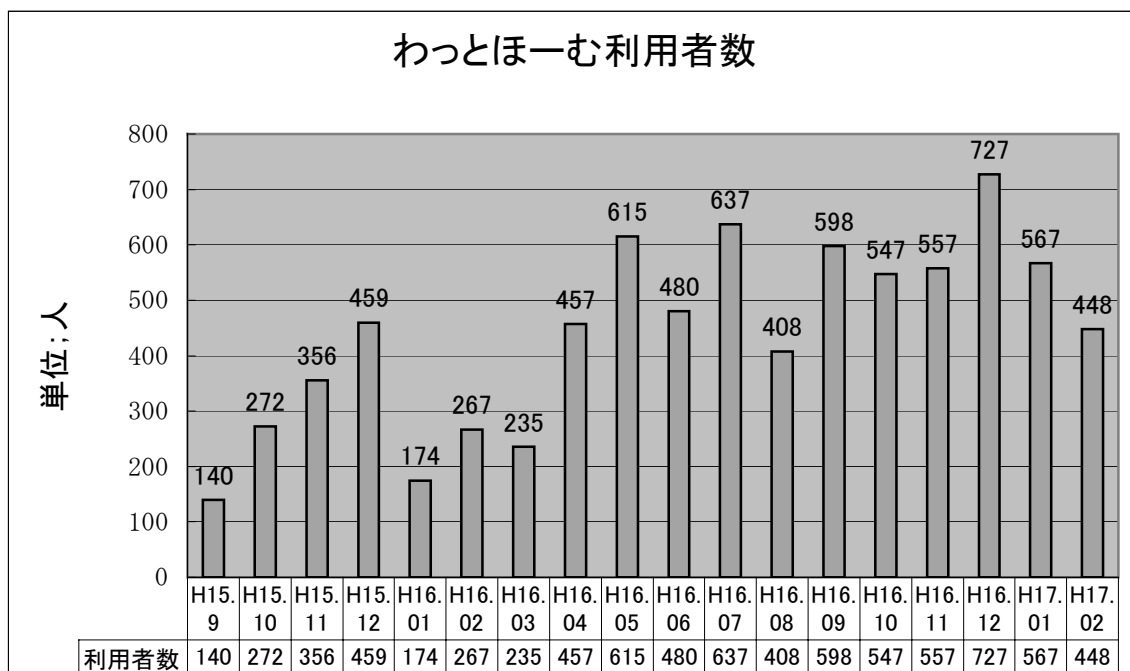
(2) 実施事業

事業種類	目的と内容	備考
①高齢者による名物作りノウハウ提供事業	高齢者の介護防止と生きがいづくりのために、新名物を作ってもらいノウハウを提供した（かぶら寿司、漬物、地粉うどん等）。	・作業指導 16年11月～17年2月 ・試食検討会 12月16日（木）
②高齢者食事会	高齢者に会費制で昼食を提供し、昼食後、カラオケ、民謡、健康体操などを行うことで介護防止を図るとともに、生きがいを持ってもらう。	・会食会 22回
③高齢者サービス講座・いきがい講座	高齢者の今後の食生活の参考になる「食」に関する講座の開設、また地域の歴史・風俗等文化的テーマの講座、パソコン講座などを開設して高齢者の方々が今後、様々な活動を行う上での動機づけを行った。	・料理教室 5回 出席者 50名 ・健康教室 2回 出席者 69名 ・パソコン講座 1回（3日）、 出席者 10名
④店舗活用事業	「わっとほーむ de 七夕まつり」を開催。地元自治会、高岡法科大学生、施設の利用者（高齢者）が協力し、七夕飾り、駅前ライトアップ作戦、コミュニティ屋台を出店するほか、高齢者が耕作した農産物や漬物、高齢者が作成した作品などを展示し、特産品・土産品のアンテナショップとして役割を設け、売れ筋商品の情報を収集するとともに、季節ごとに市を開催した。	・「わっとほーむ de 七夕まつり」 実施日 7月3日（土） ～6日（火） ・みつわ市 実施日 12月12日（日） 1月 9日（日）
⑤サロンサービス	消費者（特に高齢者）や観光客が気軽に立ち寄り、休める施設として、人々の交流の場、休憩の場、懇談の場を設けるとともに、人の流れを商店街に繋げていった。また、商店街のイベント・買物情報や各種団体の伝言等、各種情報を掲示し利便性を図った。	
⑥サービスカウンター	高齢者向け住環境についての情報提供サービス（簡易なバリア・フリーモデルコーナーの開設、チラシ等の設置、相談への対応等）や高齢者が生きがいを感じる生産活動等についての情報提供サービス（高齢者と企業・商店との橋渡し等）を行うカウンターを設け、高齢者の暮らしやすい環境づくりへのサポートをした。	



七夕祭り

(3) 施設の月別利用者数（平成 15～16 年実績）



【 効 果 】

1. 来街者の行動

従来商店街へ来街しなかった社会福祉協議会、民生委員、老人クラブのメンバーが商店街へ立ち寄るようになった。

2. 近隣個店への波及

中高年をターゲットにして、美容院・美容院・創作菓子店で改装する店舗がでてくるなど、街に活気が感じられるようになった。また、平成 18 年開店に向け、空き店舗を活用したチャレンジショップ等の出店への動きも見られる。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

事業費が捻出できず、各事業の関係者に資金の捻出を依存し、赤字の場合は関係先の負担となっているのが現状である。

2. 事業の合意形成

NPO法人主体で行われているが、高齢者や商店街からの発案を募る必要がある。

3. 実施期間・実施時期

出品者と購買者のニーズにタイミングのズレがあり、購買者のニーズをよりの確に把握する事が重要である。

【事業の実施ポイント】

事業費捻出の可能性が明確でなければ事業を始めるべきでない（補助金だけでは事業は出来ない）。また、商店街だけなら容易に理解されることでも、各種関係団体のコンセンサスが必要となる場合には強力なリーダーシップをとる体制が必要となる。

【関連URL】

NPO法人戸出コミュニティ開発(わっとほーむ)

<http://www.npo-toidecd.com/watto.html>

戸出商工会 <http://www.shokoren-toyama.or.jp/~toide/index1.html>